

公表

事業所における自己評価総括表 (放課後等デイサービス)

○事業所名	児童デイサービスいとかの杜		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 29日		令和7年 2月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17 (回答者数)	11
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 16日		令和7年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にしている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事務的なミスも多かったことから、業務改善を日々進めていること。	パートと常勤の役割を明白化し、手書きの書類は無く、独自にテンプレートを作成するなど業務の効率化を図っている。	やることリストの見える化、業務内容の報告を日報にて共有し、職員同士の業務分担や職務評価にも改善の余地があると考えている。
2	児童発達支援管理責任者による、保護者からの相談、相談支援事業所との連携、支援記録を丁寧に行い、個々の児童や家庭に合わせたインフォーマルなアセスメントにより、ご家族がお子さんの育ちを感じる事ができるよう、モニタリングでお伝えすることが事業所の要となっている。	保護者からいつでも相談に応じられる仕組み(LINE@)により、欠席連絡や相談が24時間可能にしている。相談支援事業所とのモニタリング、支援経過の情報連携の際に児童の育ちがわかるように日々の支援記録の取り方を、個別支援計画の本人支援の課題が見えるように工夫している。	相談室の間仕切りが音を遮断できない構造になっているため、壁と扉と空調の新設を目指したいと思う。児発管のOJTをより充実させ、事業所の強みが若い世代へと継承できるよう、取り組んでいきたい。
3	いとかタイムと体験プログラムの集団療育と、自由活動と専門的個別支援の個別療育を行っていること。	体験プログラムやいとかタイムには、利用開始したばかりの児童がなじむまで、1対1対応で支援している。小集団に慣れてきたら専門的個別支援で支援を手厚くしていくようにしている。	専門的個別の実施回数をさらに充実させていくため、専門的支援を2人同時に進めるよう、職員の役割分担を工夫したい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小学生(特に高学年)の小集団の体験プログラム離れによる利用を控える傾向が見られている。	低学年の高学年と一緒に楽しめる体験プログラムのレポートリーが少ないことから、集団活動への参加が難しくなっている。	来所後の宿題にかかる時間と、おやつ後のプログラム内容を児童自ら目標に取り組める活動内容の工夫が必要と考えている。現在、4月を目標に体験プログラムの大幅な変更に向け、準備中。また、来年度夏を目標に、個々人のレベルに合わせた国語算数の学習スキル向上と学習習慣の獲得に向け、支援内容のさらなる充実を検討している。
2	マニュアルの可視化の点で、事業所内に掲示しているだけで、保護者が気軽に手にとることもなかったため、HPへの掲載するとともに、マニュアル自体も見直しが必要だと感じている。	マニュアルの中身の検討があまり進められていなかった。マニュアルを改善するよりも、実際の業務上、感じたことや改善の余地があるものに労力をかけていたことから、マニュアルの大切さを軽視してしまっていた。	事業所運営上、必要不可欠なマニュアルは、職員にもご家族にも周知することが必要。
3	常勤職員の業務量が多く、業務量に偏りが生じてしまうため、業務の見直しや、内容の精査、OJTや内部研修を充実させていくことが課題だと感じている。	常勤職員には一人1台パソコンがあり、共有ファイルを使用しているが、パート職員にはパソコンはなく、支援課題の共有や、支援目標の共有が口頭でのやりとりが中心となってしまっている。	パート職員にも日常業務が可能になるよう、パソコン作業も分担し、情報共有がよりスムーズにできるようにし、一人ひとりの専門スキルも高められるよう、研修制度を充実させたい。